



エコレポ Vol.6

～忠岡町環境・衛生通信～

家庭ごみの行方 (可燃ごみ編③)



こんにちは、ただお課長です！
前回のエコレポでは、焼却されるごみの行方をチェックしたよ。
実は、全ての可燃ごみが焼却されるのではなく、生ごみなど発酵しやすいごみは微生物による“メタン発酵処理”を行うことがあるんだ。
今回は、そのメタン発酵処理についてお伝えしていくよ。

エコレポを
データで
見る▼



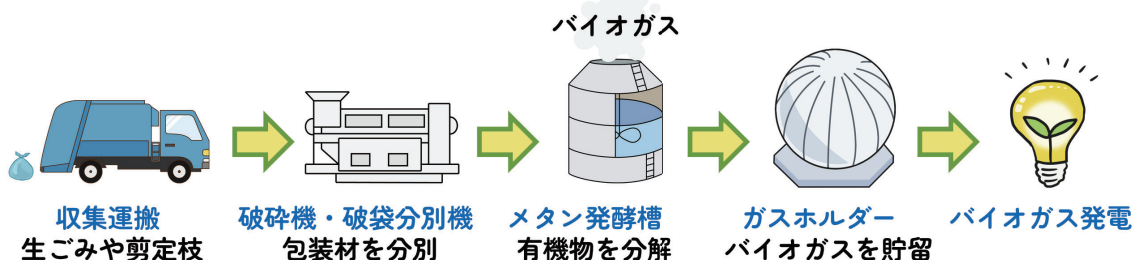
公民連携
ごみ処理
事業概要▼



? メタン発酵処理ってどんなもの？

メタン発酵処理施設に運び込まれたごみは、機械によって袋を取り除き、細かく砕かれた後、“メタン発酵槽”に投入されます。“メタン発酵槽”では、メタン生成菌によって生ごみ等に含まれている炭水化物・タンパク質・脂肪等がメタンを主成分とするバイオガスに分解され、発生したガスは“ガスホルダー”に貯蔵し発電に使用されます。

▼メタン発酵処理フロー



? 実際の施設ってどんなもの？

メタン発酵処理施設は、前回（広報ただおか5月号）ご紹介した焼却施設と同じ民間の処理施設にあり、4000立方メートルの発酵槽2基、3080立方メートルのガスホルダーを有する国内最大規模の施設です。



単に生ごみ等を焼却するのではなく、微生物の力を借りてエネルギー（バイオガス）を取り出しているんだね。

→施設全景



→メタン発酵槽の外観



→ガスホルダーの外観

